

2023 年度 委員会活動報告書

委員会名	総務委員会										
代表者名	殿崎正芳										
メンバー数	7 人（2023 年度末時点）										
活動内容・成果	<p>1. 2023 年度年次総会開催の件（6 月 10 日 開催）</p> <p>2023 年 6 月 10 日（土）リモートにて 2023 年度年次総会を開催した。 総会出席正会員数 56 名、委任状 90 名 合計 146 名 （議決必要人員 129 名／正会員総数 385 名／総会員数 521 名）</p> <p style="text-align: center;">＜総会議題＞</p> <p>議題 1. 2022 年度学会活動状況報告の件 議題 2. 2022 年度学会決算報告の件 議題 3. 監査報告の件 議題 4. 2023 年度学会活動計画（案）審議の件 議題 5. 2024 年度学会予算（案）審議の件 上記につき審議の結果異議なく承認された。</p> <p>2. 理事会開催の件 187 回～191 回 5 回開催 学会の業務運営に関する重要事項を審議決定する為、理事会を下記のごとく開催した。</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>第 187 回理事会</td> <td>4 月 22 日（土）</td> </tr> <tr> <td>第 188 回理事会</td> <td>6 月 11 日（日）</td> </tr> <tr> <td>第 189 回理事会</td> <td>8 月 5 日（土）</td> </tr> <tr> <td>第 190 回理事会</td> <td>10 月 21 日（土）</td> </tr> <tr> <td>第 191 回理事会</td> <td>1 月 20 日（土）</td> </tr> </table>	第 187 回理事会	4 月 22 日（土）	第 188 回理事会	6 月 11 日（日）	第 189 回理事会	8 月 5 日（土）	第 190 回理事会	10 月 21 日（土）	第 191 回理事会	1 月 20 日（土）
第 187 回理事会	4 月 22 日（土）										
第 188 回理事会	6 月 11 日（日）										
第 189 回理事会	8 月 5 日（土）										
第 190 回理事会	10 月 21 日（土）										
第 191 回理事会	1 月 20 日（土）										
来期の活動計画	<p>1. 2024 年度年次総会開催の件（年 6 月 29 日（土）開催予定）</p> <p>2. 理事会開催予定</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>第 192 回</td> <td>4 月 13 日（土）</td> </tr> <tr> <td>第 193 回</td> <td>6 月 8 日（土）</td> </tr> <tr> <td>第 194 回</td> <td>9 月 14 日（土）</td> </tr> <tr> <td>第 195 回</td> <td>12 月で調整中</td> </tr> </table>	第 192 回	4 月 13 日（土）	第 193 回	6 月 8 日（土）	第 194 回	9 月 14 日（土）	第 195 回	12 月で調整中		
第 192 回	4 月 13 日（土）										
第 193 回	6 月 8 日（土）										
第 194 回	9 月 14 日（土）										
第 195 回	12 月で調整中										
その他											

2023年度 委員会活動報告書

委員会名	研究発表大会実行委員会
代表者名	高野一彦
メンバー数	9人（年度末時点）
活動回数	2回（うちオンライン開催2回）
活動内容・成果	<p>2024年6月29日（土）・30日（日）の2日間、関西大学高槻ミューズキャンパス（大阪・高槻）で開催予定である。本委員会は、研究発表大会の企画と準備、当日の運営などを担うことを目的としている。メンバーは、小方信幸先生、河口洋徳理事、高田一樹先生、殿崎正芳先生、平野琢先生、村山元理先生、寅屋敷哲也先生（早稲田大）、小野梓氏（JR西日本、関西大学博士後期課程院生）、及び高野一彦の9名である。</p> <p>2023年12月、及び本年3月の2回、オンラインで実行委員会を開催し、特に基調講演者の選定、大会全体の企画、懇親会の企画などの議論を行った。</p>
来期の活動計画	<p>4月10日が研究発表大会での発表申込の締切であり、その後、予稿審査を経て、大会全体のプログラムを確定して学会員に大会の詳細なプログラムを案内する予定である。</p> <p>また、4月25日に潜道会長、及び実行委員有志により、関西大学高槻ミューズキャンパスの下見を予定している。</p> <p>6月29日（土）及び30日（日）の本番では、実行委員と関西大学のアルバイト学生が大会の運営を担う予定である。</p>
その他	

2023年度 委員会活動報告書

委員会名	論文審査・学会誌編集委員会
代表者名	高浦康有（常任理事）
メンバー数	9人（年度末時点）
活動回数	3回（うちオンライン開催3回）
活動内容・成果	<p>学会誌投稿論文（大会発表者論文及びコールフォーペーパー（CFP））について、査読を理事を中心とした会員の先生方に依頼、査読結果を投稿者にフィードバック、再度、査読者の先生方に査読を依頼、最終的に採用の可否を委員会で議論し、決定した。査読者等への連絡は各委員が手分けして行った。</p> <p>現在（3月下旬）、学会誌掲載論文の取りまとめを終え、新年度の発表大会の予稿を対象に審査のプロセスに入り、理事を中心とした会員の先生方に予稿審査を手分けして依頼している。</p>
来期の活動計画	引き続き予稿や投稿論文等の査読及び結果判定に関わて行く。
その他	

2023 年度 委員会活動報告書

委員会名	『サステナビリティ経営研究』編集委員会
代表者名	平野 琢
メンバー数	7人（年度末時点）
活動回数	3回（うちオンライン開催5回）※メール審議を含む
活動内容・成果	<p>2023 年度は、オンラインをメインに編集委員会^(注1)を開催し、次の業務を行った。</p> <p>①『サステナビリティ経営研究』の学会誌運営の改善策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲載審査に関する規定の課題の整理と改善の検討 ・投稿から掲載審査に至るフローの課題の整理と解決策の検討 <p>②『サステナビリティ経営研究』の査読・掲載に関する諸業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・23 年度は、査読付き論文 2 件、査読なし論文 1 件の論文投稿があった。 ※（査読論文：非掲載 1 件、査読中 1 件。査読なし論文：掲載 1 件） <p>③『サステナビリティ経営研究 第 3 号』^(注2)の企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『サステナビリティ経営研究 第 3 号』の企画を検討。 ※第 3 号は「サステナビリティと環境・投資」をテーマに現在企画を検討中 <p>④オンライン投稿フォームを用いた投稿募集の企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールを用いた論文投稿の方式から専用投稿フォームを用いた論文投稿の方式を企画検討。 ・オンライン投稿フォームのパイロット版の作成 <p>（注 1）最新の編集委員会の議事録は別添 1 を参照 （注 2）『サステナビリティ経営研究 第 3 号』の企画詳細は別添 2 を参照</p>
来期の活動計画	<p>24 年度は、次の業務を行う予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『サステナビリティ経営研究』の学会誌運営（査読・掲載業務、改善策の検討） ・『サステナビリティ経営研究 第 3 号』の企画と出版（オンライン） ・『サステナビリティ経営研究』の論文投稿の専用フォーム化 ・その他
その他	

2023年度 委員会活動報告書

委員会名	水谷賞選考委員会
代表者名	劉慶紅
メンバー数	委員6人・アドバイザー2名（2023年度末時点）
活動回数	委員会の業務の性質に基づき、メール審議で実施
活動内容・成果	<p>水谷賞の更なる発展のため、制度の見直しを図りつつ、規程を策定した。新制度のもとで、第4回（2024年度）学会賞の募集を実施した。</p> <p>2023年6月 前任者からの業務の引継ぎを完了。</p> <p>2023年7月 水谷雅一賞に関して、これまで文書での規程が存在しなかったため、今後の賞の発展のため、規程を策定する方針を決定。アドバイザー2名（高橋浩夫先生・浜辺陽一郎先生）を選任。</p> <p>2023年8月～11月 委員長が規程源案を作成し、メール審議により、意見を聴取しながら、修正を加えて規程案を作成。</p> <p>2023年12月～2024年1月 委員会で策定した規定案を理事会メンバーに送信して意見を聴取し、理事会での討議を経て、修正を加えた形で理事会承認を得て、「日本経営倫理学会学会賞規程」を成立させる。</p> <p>2023年12月～2024年1月 2024年度水谷賞の募集要項の作成・募集準備</p> <p>2024年2月～3月 2024年度水谷賞の募集</p> <p>2024年3月～ 2024年度水谷賞の審査</p>
来期の活動計画	<p>規程策定の際に、学会誌以外に掲載された論文による応募など、懸案となっている事項について更に検討を加え、水谷賞のさらなる発展を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年度水谷賞の表彰 ・学会賞に関する研修の実施 ・規程制定後の振り返りと改善点の洗いだし ・2025年度水谷賞募集の準備
その他	

2023 年度 委員会活動報告書

委員会名	国際交流委員会
代表者名	葉山彩蘭
メンバー数	6 人（年度末時点）
活動回数	4 回（メール会議 2 回、ZOOM 海外渡航説明会 1 回、国際交流イベント実施 1 回）
活動内容・成果	<p>2024 年 3 月 3 日-7 日、タイのバンコクにて、日タイ国際交流イベントが開催された。</p> <p>（1）3 月 4 日（月）：タイの名門国立大学、タマサート大学ビジネススクール（TBS）との共催で、「サステナビリティ・経営倫理に関する国際カンファレンス」を開催した。タマサート大学ビジネススクール（TBS）からは 5 名の准教授が研究報告を行い、2023 年タイ最優秀研究者賞を受賞した Dr. Sakun Boon-itt 教授が基調講演を担当した。（Topic: Sustainable Green Supply Chain Management: Emerging Trends and New Directions in Research）。本学会（JABES）からは、5 件の研究報告が行われた。聴講する学生も含め、国際会議への参加人数は 40 名だった。夕方からの懇親会には、双方から合計 23 名が出席した。JABES と TBS の交流を深めるとともに、タイにおける経営倫理、CSR、サステナビリティ、SDGs などに関する研究動向を把握する機会となった。（2）3 月 5 日（火）：日産自動車タイ工場の見学会を実施した。23 名の学会員がチャーターバスで参加した。見学内容は、工場トップ 3 名によるオリエンテーション、生産ラインの見学と説明、Q&A であった。約 2 時間の見学は大変勉強になり、充実したものとなった。（3）3 月 6 日（水）：高橋浩夫名誉教授の案内で、12 名が NIDA（National Institute of Development Administration）を訪問した。同機構についてのオリエンテーションを受けた上で、構内の博物館や図書館を見学した。また、MOU 協定の可能性や国際交流強化の申し出もあった。</p> <p style="text-align: center;">（タマサート大学と国際会議共催）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
来期の活動計画	<p>本委員会は、引き続き、国際会議での研究発表を会員に奨励し、国際交流イベントの企画・開催を検討する。</p> <p>The International Exchange Committee will continue to encourage members to present their research at international conferences and consider planning and organizing international exchange events.</p>
その他	

2023 年度 委員会活動報告書

委員会名	広報委員会
代表者名	荻野博司
メンバー数	5 人（年度末時点）
活動回数	5 回（うちオンライン開催 5 回）＝個別案件での担当者会議を含む
活動内容・成果	<p>ホームページの全面的な見直しを実施し、年度末までに多くの部分でのアップデートが実現した。新入会を考える人は、まずホームページで学会活動を確認するため、情報の迅速な更新を進めなければならない。このため、各部会の責任者にも協力を要請している。</p> <p>理事、監事によるコラム「経営倫理の窓から」を毎月、ホームページに掲載している。経営倫理の多角的な側面を知ってもらうための試みであり、一回の休載もなく続いている。</p> <p>学会紹介ビデオ更新の検討作業を始めた。海外での研修、30 周年記念行事など、幅広い取り組みを知ってもらうために、来年度中には新しいバージョンを公開したい。</p> <p>学会報はホームページ掲載に移行し、必要に応じて作成することになった。過去の活動記録の側面もあり、有効に活用したい。</p>
来期の活動計画	<p>ホームページをさらに魅力的なものにすることが最大の任務と考えている。このため、広報委員が分担して、更新作業に当たることも考えたい。</p> <p>メディアへの発信の機会を増やす必要がある。個々の会員では取材や投稿の機会もあるが、学会レベルでの取り組みは乏しかった。経営倫理に関する深刻な問題が惹起した際には学会コメントやアピールを发表することについても検討したい。</p> <p>ビデオの更新にあたっては費用対効果を考えながら、魅力的な内容にすることを考えたい。</p>
その他	<p>企業活動と同様に、広報は担当部門だけが行う領域ではない。役員が一体となって取り組む環境を醸成したい。</p>

2023 年度 委員会活動報告書

委員会名	研究交流例会委員会
代表者名	水村 典弘
メンバー数	6 人（年度末時点）
活動回数	4 回（うちオンライン開催 4 回）
活動内容・成果	<p>委員会の開催（2023 年 8 月 5 日 Zoom） 研究交流例会の運営体制について、①開催頻度（年 3 回、理事会開催日 13 時 00 分～15 時 30 分）、②報告者（各回 2 名）、③謝金の取扱いなどを確認した。また、委員会の使命（ミッション）である「例会報告者の確保」と「学会入会への誘導」について協議・検討した。</p> <p>研究交流例会の開催実績</p> <p>□2023 年 4 月度 研究交流例会 ー開催日時・方式：2023 年 4 月 22 日（土）13 時 00 分～15 時 30 分・オンライン ー講演①「本物の価値と誠実さ、変革力と自立」 ・株式会社資生堂 資生堂企業資料館 館長 大木 敏行 様 講演②「国連ボランティアとしての活動報告及びジェンダー問題についてのスリランカと日本の比較」 ・大阪大学人間科学部共生学科 3 年 谷口 陽咲 様 元 UNDP スリランカ Programme Assistant（国連ユニバーシティボランティア） ー参加人数：30 名（非会員 1 名を含む）</p> <p>□2023 年 10 月度 研究交流例会 ー開催日時・方式：2023 年 10 月 21 日（土）13 時 00 分～15 時 30 分・オンライン ー講演①「アベノミクスの総決算」 ・朝日新聞社 編集局・編集委員 原 真人 様 講演②「金融政策正常化を巡る論点整理～植田日銀へのメッセージ～」 ・埼玉大学経済学部 教授（副学部長） 中川 忍 様 ー参加者：28 名（非会員 2 名を含む）</p> <p>□2024 年 1 月度 研究交流例会 ー開催日時・方式：2024 年 1 月 20 日（土）13 時 00 分～15 時 30 分・オンライン ー講演①「AI と倫理—企業経営における AI の利活用について—」 ・拓殖大学 商学部 准教授 田中 敬幸 様 講演②「Google の組織アイデンティティと個人データを巡る課題への対応」 ・千葉経済大学 経済学部経営学科 専任講師 藤原 達也 ー参加者：29 名（非会員 1 名を含む）</p>
来期の活動計画	研究交流例会の開催日程及び時刻は、理事会開催日の 13 時 00 分～15 時 30 分とする。研究交流例会開催通知については、開催日 1 か月前に JABES 会員宛てにメールで配信するとともに、日本経営倫理学会ウェブサイトにも掲載する。報告者の選定等については、今後開催する委員会の場で検討する。
その他	負担の公平化を図るためもあり、研究交流例会の運用の一部を見直す旨について委員会内で発議し検討する。具体的には、学会事務局との連絡や開催通知の作成などといった業務全般は委員長が担当する。ただし、例会報告者の人選及び例会当日の司会・進行役については輪番制の導入を検討している。

2023 年度 委員会活動報告書

委員会名	企業交流委員会
代表者名	井上 泉
メンバー数	水尾順一、文 載皓、勝田和行（年度末時点）
活動回数	10 回（うちオンライン開催 9 回）
活動内容・成果	<p>委員会の名称を、「企業視察委員会」から「企業交流委員会」に変更。</p> <p>2024 年 3 月 5 日に、学会タイ訪問タマサート大学との研究交流会に合わせて、タイの日産自動車工場の見学を実施した。（参加者 22 名） 本企画については、委員会で決定し学会に報告済み。</p> <p>本来、自動車工場の見学は秘密保持上許可されないのが普通であるが、潜道会長とともに日産車体（株）専務（タイ日産勤務経験あり）へ訪問して直に要請を行った。その結果、快諾を頂戴し企画がスムーズに進んだ。 活動回数の多くは、日産自動車関係者及び国際交流委員会との打合せである。</p> <p>その後、タイ日産現地責任者との連絡、学会国際交流委員会との調整等を経て、無事本企画を実施できた。 見学にあたって、生産、開発部門の 2 名の日本人幹部が付き添い、質疑も含めて丁寧な対応をしていただいた。</p> <p>参加者からは、「日頃知ることの少ない自動車工場の工程を自分の目でみることができ、非常に貴重な機会であった」との評価であった。 タイ工場での女性従業員の動向やタイにおける自動車メーカーのシェア、日本メーカーのマーケットにおける地位等貴重な話を聞くことができた。</p>
来期の活動計画	学会活動の参考になるよう国内企業の活動状況について、視察等を検討する。
その他	

2023 年度 委員会活動報告書

委員会名	シンポジウム委員会
代表者名	村山元理
メンバー数	5人（年度末時点）
活動回数	0回（うちオンライン開催 0回）
活動内容・成果	<p>2023 年度は年末にタイでの国際シンポジウムが開催されるとのことで、実際に 2024 年 2 月に開催済みである。特に国内シンポジウムは開催せずとも良いとの当初の方針があり、活動はしなかった。</p> <p>2024 年度は、シンポジウム開催に向けて、委員会を開催して、テーマを決めいと思う。</p> <p>当初のメンバーは以下である。</p> <p>◎村山元理（常） 葉山彩蘭（副） 河口洋徳（常） 松田千恵子（理） 林順一（理）</p>
来期の活動計画	2024 年度において、シンポジウムの開催を予定する。
その他	

2023 年度 委員会活動報告書

委員会名	研究法ワークショップ委員会
代表者名	小方信幸
メンバー数	4 人 (2023 年度末時点)
活動回数	2 回 打合せ 1 回 (オンライン) ワークショップ 1 回 (会場・オンライン併用)
活動内容・成果	<p>2023 年度で 4 回目となる研究法ワークショップは、会場とオンラインを併用して開催した。JABES、経営倫理実践研究センター (BERC)、日本経営倫理士協会 (ACBEE) の会員を対象とし、さらに JABES 会員による紹介がある参加希望者も参加可とした。また、会場を無償提供いただいた、法政大学大学院政策創造研究科の在大学生も参加可とした。参加申込者数は会場・オンライン合計で 60 名であった。</p> <p>日 時： 8 月 26 日 (土) 9:30-18:00 場 所： 法政大学新一口坂校舎 3 階 301 教室および Zoom によるハイフレックス開催 〒102-0073 千代田区九段北 3-3-9 アクセス http://chiikizukuri.gr.jp/access/ 定 員： 350 名 うち教室 50 名 (教室定員 107 名) オンライン 300 名 対 象： JABES、BERC、ACBEE の会員及び JABES 会員の推薦がある方 会場提供校の法政大学大学院政策創造研究科の学生</p> <p>参加費： 無料 タイムテーブル： 9:30 受付開始 10:00-11:00 WS 1 基礎編 1 研究の全体像 11:00-12:00 WS 2 基礎編 2 研究倫理 12:00-13:00 昼休み 13:00-14:30 WS 3 座談会「評価される査読論文・学位請求論文」 14:40-15:40 WS 4 水谷雅一 (論文) 賞 優秀賞 受賞論文の報告 15:40-17:10 WS 5 ① 共分散構造分析を用いた研究の発表 ② 共分散構造分析の解説と経営学領域における活用について 17:30～ 希望者で懇親会</p>
来期の活動計画	<p>2024 年度の研究法ワークショップについては、3 月 31 日 (日) 開催の第 1 回委員会で基本方針を決定し、4 月 13 日 (土) の理事会で開催承認を得る予定。</p> <p>開催時期、場所、ワークショップの内容については今後の委員会で決定し、詳細が決まり次第 JABES 会員に告知を行う。</p>
その他	

2023 年度委員会活動報告書

委員会名	法人化検討委員会
委員長名	今井祐
メンバー数	5人（年度末時点）
活動回数	3回（うちオンライン開催3回）
活動内容・成果	<p>1. 2023年10月1日、第1回法人化検討委員会 テーマ：日本学術会議「学協会に係る法人制度一運用の見直し、改善等について」の提言の件（事務局 企画課 課長補佐（情報担当）内山貴裕様から回答） 日本学術会議の傘下に学協会（日本学術会議協力学術研究団体：JABES 加盟済み）があり、2019年2月時点で2018団体加入している。2008年以降、日本学術会議は、「一般社団」または「公益社団」に移行を支援するとともに、学術分野に相応しい法人制度の見直し、改善等に向けた提言を政府に出した。</p> <p>① 「収支相償基準」（公益目的事業について、その実施費用を超える収入を得てはならないとする基準（「公益法人 認定法」）第5条第6号及び第14条）いわゆる「繰越し」に関しては、小規模で経営不安定な学協会において、法人運営の安定性、継続性を確保する上で支障をきたしている。剰余金が発生した場合には、同事業費3年分以内を限度として次年度以降への繰越しを可能とすること。</p> <p>② 国際会議開催の準備を進める関係学協会が連携組織体を設置し、会議開催資金の積み立てを行うことのできる連携準備金制度の新設。</p> <p>本提案に関し政府委員会において理解は進んだものの、公益法人制度の見直しまでには至らなかったが岸田内閣による「新しい時代の公益法人制度の在り方に関する有識者会議」に引き継がれている。</p> <p>2. 2023年10月28日、第2回 法人化検討委員会 テーマ：一般社団法人・公益社団法人等に関する要点解説と問題点 法律体系として「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律・施行規則等」と「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律・施行規則等」について要点解説と問題点の指摘を行った。</p> <p>3. 2024年1月20日、第3回法人化検討委員会 テーマ：一般社団法人・公益社団法人等に関するメリットとデメリットの明確化 人格なき社団として活動している JABES を一般社団法人➡公益社団法人化する場合、メリットとして、大きくは社会的信頼性の向上と税務上の優遇措置が挙げられる。他方、公益社団法人化のデメリットとしては、行政庁の監督下となり、認定法等に定める様々な規制を受けるため、量的及び質的に手間暇がかかることが挙げられる。①中長期的にこれらデメリットを明確化し、②メリットと比較検討し、メリットがデメリットを上回る見通しが立つのかを検討することまでが本委員会の目的であることを明らかにした。</p>
来期の活動計画	<p>4. 第4回法人化検討委員会 テーマ：「公益社団法人化した学術団体（73）の実態調査」 調査項目：①平均会員数、②産・（官）・学連携状況、③法人会員（等級区分の有無を含む）数及び賛助会員数と各々の年会費、④寄付金募集状況、⑤営利事業として何をやっているのか及びその全体事業に占める比率等。</p>
その他	

